

# 2002年度受賞作

smt（グランプリ）賞



## 自画像自分史風

源間 正彦

「去年のアートアニュアル審査でも「庭の枯れたヒメリンゴの木からこけし人形を創る賦」を選ばせていただいて、源間さんのことは大変印象に残っております。今回たまたまセルフポートレートというテーマだったのですけれども、偶然なのですが、まさに源間さんのこれまでの仕事の中でこれ以上ないテーマであったと思います。今回の作品は、戦時中からの自分のセルフポートレートを並べた作品で、圧巻でした。コメントするというより、敬服しております。自分の人生の中のひとこまひとこまを残そうという意志が非常に強い方なのだと思います。自分についてべたべたせず、自分を突き放してみているところがある。」（飯沢耕太郎）

「セルフポートレートということは、自分を表現することであるから技術や方法を越えて、自分を表現したいという気持ちが強いとそれだけで審査員を説得するものがある。そうい

う意味でも源間さんの作品はインパクトがあったが、作品に時間軸が加わることによって、より作品が力強くみえていた。」（佐藤一郎）

「グランプリに対しては誰も異論はないだろう。」（田中秀幸）

「源間さんの作品は、自然体の鏡、辛いときも苦しいときもずっと絵を描きつづけてきたことはすごいことだ。」（中谷日出）

「テクノロジーの匂いのするメディアテークで、蓋を開けたら源間さんだったというように、作品が選ばれたことはおもしろいことですね。源間さんの個展開催のときにはお金払っても観に来ようと思います。」（明和電機）

セルフポートレート

2002